

## なかよし情報210628: どうして私たちはこんなに頭が悪いのか？

2021. 6. 28 教育文化研究所 長阿彌幹生 wrote.

梅雨空の合間に、青空が顔をのぞかせます。その眩しいこと！南下した梅雨前線に向けて澄んだ北風が吹き込んでいます。大気中の水蒸気も少ないせいで、スッキリしたが青空が目の前いっぱいにはびこります。

皆さんいかがお過ごしですか？元気で過ごしのことと思います。今月も拙い文章ですが私からのメッセージ『なかよし情報』をお送りします。お時間があればお読み下さい。



★写真は我家のベランダから青空の下、宝満山、若杉山、四王寺山の眺めです。(6月27日撮影)



### なかよし情報210628: どうして私たちはこんなに頭が悪いのか？



いろいろなことが起きます。それを見る度にどうしてこんなことも予想できなかったのか、どうして事前に対策を十分に考えられなかったのか、・・・と思うようなことが多々あります。今回の東京オリンピックもコロナへの態勢の不備が指摘されています。国民の多くが不安に思っているのに、なぜこのような世界的に感染が広がっている中で開催を強行しようとしているのか？強行しようとする側の理由はあると思いますが、その理由が十分に国民の納得と合意が得られていないから、私たちは不安になっているのではないのでしょうか。

このことを政治的な角度ではなく、別の観点から考えてみたいと思います。その検討を助けてくれるのが、内田樹(うちだたつ)氏の著作『困難な成熟』(夜間飛行・刊)です。その一部をご紹介します。

#### ■ どうして私たちはこんなに頭が悪いのか？ .....

Page184: 自分が選択したこと、自分がやっていること、自分が考えていることの適切さについて、第三者的、価値中立的な視点から自分自身の推論や判断を吟味するというのは、言い換えると「自分の頭の悪さを点検する」ということなのです。つまり、「頭の悪さ」と「頭の良さ」を分岐するのは、「自分はもしかすると頭が悪いんじゃないか？」という自己点検の装置が起動しているかいらないか、それだけの違いなんです。「自分は頭がわるいんじゃないか？」という疑問に捉えられて、それゆえメタ認知的に自分の思考を自己点検できる人はあまりひどい失敗をしない。

Page185: 自分の頭の悪さの由来と構造について常日頃から考える習慣を身につけていると、「大きな間違い」を犯すリスクが軽減される。そうする方が倫理的に正しいとか、政治的に正しいとかという話をしているわけではありません。人間が人間にもたらす災厄をどこまで先送りでき、被害をどこまで軽減できるかというごくごく散文的な話なんです。あまりこめかみに青筋を立てたりしないで論じたほうが良い話なんです。

.....

内田氏の論点は「自分は間違っているのではないか？」という意識を持つこと、「自分は絶対正しい」と思いこむ傲慢さに気付くこと、要は自分の考えを冷静に客観的に点検するために必要な“謙虚”な姿勢が必要なのではないかとクールに指摘しています。

内田氏は「こんな事態」を招来している原因をこのようにも述べています。「この世には様々な理不尽がある。でも、それは誰かが自己利益のために工作してそうなっているわけではない。それは無数の「頭の悪さ」の集積なのです。制度設計のミスや、未来予測の誤りや、想像力の欠如や、無根拠な楽観や、・・・別に深い考えがあったわけではなく、むしろあまり深く考えなかったせいで起きたことが無数に集積して、“こんな事態”になっている。」と。

利益優先、成長優先の社会的全体のせわしなさの中で、あまりモノを考えないでものごとを進めていくことが常態化したために、「こんな事態」が頻繁に起きるようになっていないのでしょうか。

コロナ下の今だからこそ、自らの頭の悪さを自認し、この落ち着きの無い社会を、緻密な制度設計、高い予測精度、冷静な判断、そしてみんなが幸せになるための長期展望などを冷静に考える必要があるのではないのでしょうか。東京オリンピックが“こんな事態”にならないことを祈るばかりです。